

---

# マルとウキさん

ごはんライス

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

マルとウキさん

### 【Nコード】

N1877L

### 【作者名】

ごはんライス

### 【あらすじ】

ダウンタウンのコント「おかんとマー君」みたいな書こうとしたらこんなもんできました。河野夜兎先生の知り合いであるところのハルちゃんとアキさんとは何の関係もございません。マジで……！

作者談・昔、ダウNTアウンがやっていた「おかん」という連作コン  
トを思い出しながら書いてみました。。

「マルーいけいけー」

「うりゃー」

マルは、三塁に滑り込んだが、すんでのところで、タッチされア  
ウトになってしまった。

「ああん！マルうーおっしい！ー」

マルの母ウキが、メガホンで、前に座ってるじいさんのはげ頭を  
バンバン叩く。

「やめる。ばばあ。このやろう。痛い」

「ウキさん。落ち着いて。落ち着いて」

「マルううううううう」

試合はそれで終わり。

「ちきしょー！こんなの認めねえ！ー」

ウキさんは、場内に飛び込んで、審判にぎゃあぎゃあわめいてい  
た。

「あんたら、どこ見てんねんや！マル、ぜってーセーフやったやろ。  
あほう！」

「母ちゃん。やめてよう。お願い。やめてよう」

「お母さん。落ち着いて落ち着いて」

「むっきー」

ウキさんは審判を順番に殴り始めた。

両ベンチから選手もわらわら集まってきた。

「なにやってんだよ。ばばあ。オレらの勝ちなんだよ」

「うるせえ。ガキ。えい」

「いてえ！」

ついには、審判員も交えの大乱闘。

「中学の試合で乱闘で初めて見た。。。」

ウキといっしょに試合を見に来ていた、同じ会社のうさえは、ちよっとおかしくってぷぷと笑ってる。

「てめえら。全員、しばいたるーーーー！！！」

結局、ウキさんのせいでマルのチームは、一ヶ月試合自粛の刑に処せられた。

「ははははは。まあまあ。野球だけが人生じゃないさ」

「ひつく。ひつく。母ちゃんのせいだよ。母ちゃんのばか」

うさえは運転しながら、ウキをたしなめる。

「そつだよ。ウキさん。ひどいよ。マルがかわいそつだよ」

「なによー。うさつぺまでえ」

ウキさんは口を膨らます。

うさえは、またぷぷと笑う。この子どもっぽいところがウキさんの魅力だ。

まあ何はともあれ、その晩、ウキさんが罪ほろぼしに特製ステークを振舞ったのでマルも二ッコニコ、納得した。独身のうさえもウキさんのとどこでごちそうになった。

そんな豪快なウキではあったが、ある日の会社の更衣室にて。

「うう。どないしよう」

「どうしたの。ウキさん。暗い顔しちゃって」

いつもは、「うさつぺ。タッチ」とうさえのおっぱいを触ってくるのに今日はしない。

「うさつぺ。聞いてくれよ」

「う、うん」

ウキは、実にウキらしくない口調でしゃべり始めた。

「わたいの弟が日本に帰ってくるらしいんですわ。わたい、どないしよう。ほんま、どないしよう。わたいどないしたらええかさつぱ



「あ。すまん。ひくひつく」

「こら。ゴリ夫。うちの息子になにすんねや！」

「すまん。すまん。おっと。このねえちゃんは。ひゃつく」

「わたいが勤めてる会社の同僚のうさえちゃんだよ」

「ど、どうも」

「わはははははは。色っぱいねえちゃんだなあ。ちよっとおっちゃんに触つてよ」

ゴリ夫がズボンを脱ごうとする。

「あつ何ちゆうことを。このくそゴリラ」

ウキさんがゴリ夫に飛び掛ったら、ゴリ夫はあつという間にウキさんを投げ飛ばした。

どしゃーーーーーん。

テーブルに激突して、テーブル上の料理がぐつしゃぐしゃ。

「あわわわわ。ウキさん大丈夫？」

「わ、わたいは大丈夫」

額から血を流してるよ！全然、大丈夫じゃない！

「そ、それより、うさつぺ。マルは大丈夫か」

「あつ」

マルが金属バットを持って、ゴリ夫に立ち向かってる。

「か、母ちゃんのカタキ」

「ふん。おもしろい。ひつく。来な」

マルがええええいやああああと突進し、ゴリ夫の肩に金属バットを思い切り振り落とした。

「ありやりやりや???」

金属バットがぐにやりと曲がった。

「うそーん」

「がっははははは。甘いな。マル。ひつく。今度はこっちの番だ」

ゴリ夫は酔いのせいかふらふらしながら、マルを持ち上げた。

「うわあああ。怖いいいいいい。母ちゃーーーーん」

んで、投げた。

がしゃーーーーーん。

ガラス窓を突き破り、落下した。「うわああああああ」四階  
なのでたぶん、骨折する。

「ぐふふふふふ」

うさえは絶対絶命である。ウキさんに助けを求めようにもすでに  
気絶してる。

「おねえちゃん。ひつく。いい体してるやんけ。旨そうやんけ。ひ  
つく。ひつく」

うさえは怖くて尻餅をつき、がたがた震える。パンツ丸見え。そ  
れがまたゴリ夫を刺激する。

「うやつほーーーーー!!!!セクシーーーーーー!!!!」

うさえに飛び掛るゴリ夫。

「ここから先は少年誌では描写できません。エロなちびっこ読者諸  
君。ごめんなつさーーーーい。」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1877l/>

---

マルとウキさん

2010年10月8日14時40分発行